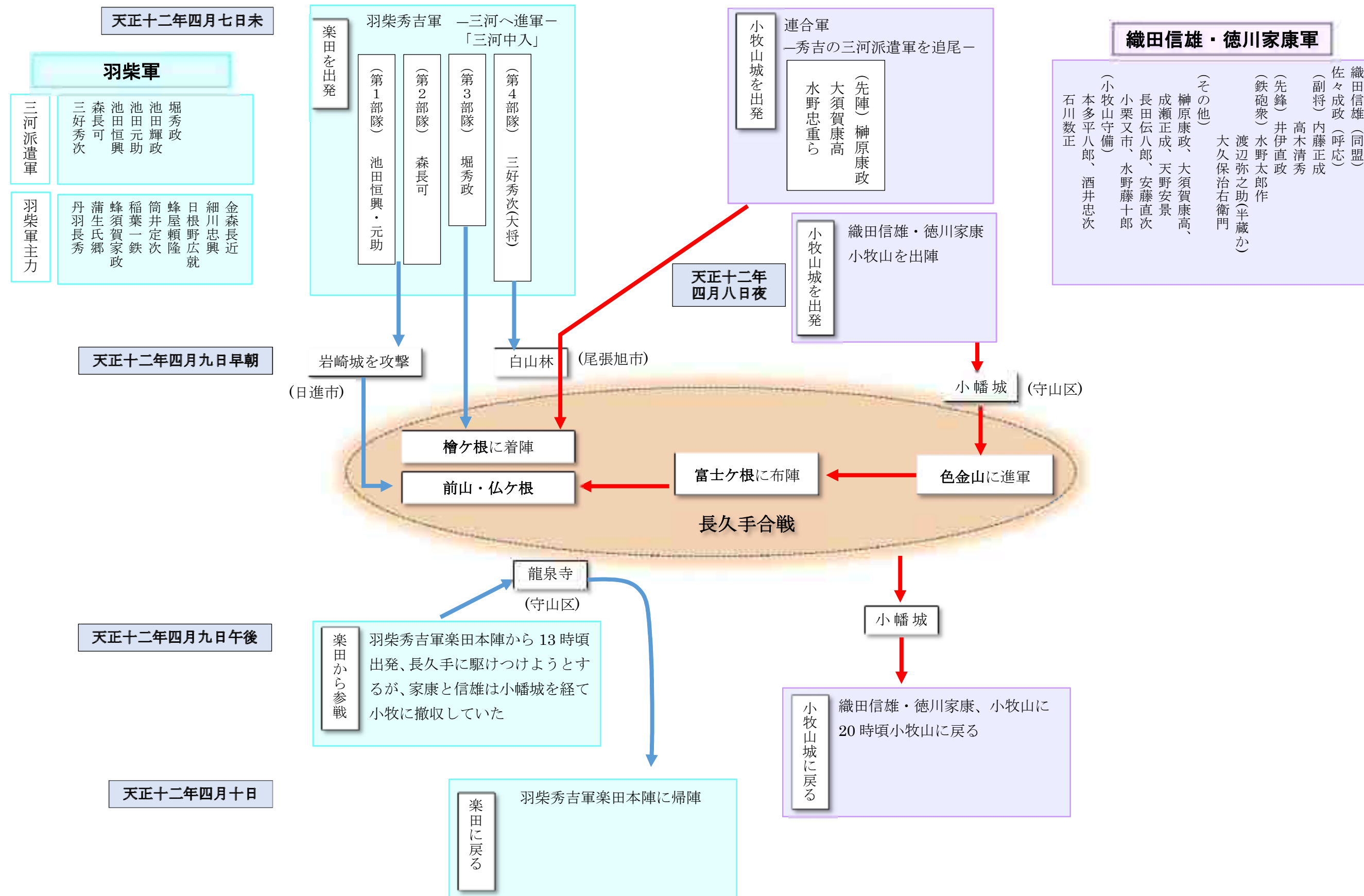


■ 「小牧・長久手の戦い」の概要



■ 現在の航空写真で見る「小牧・長久手の戦い」の進軍ルート（推定）



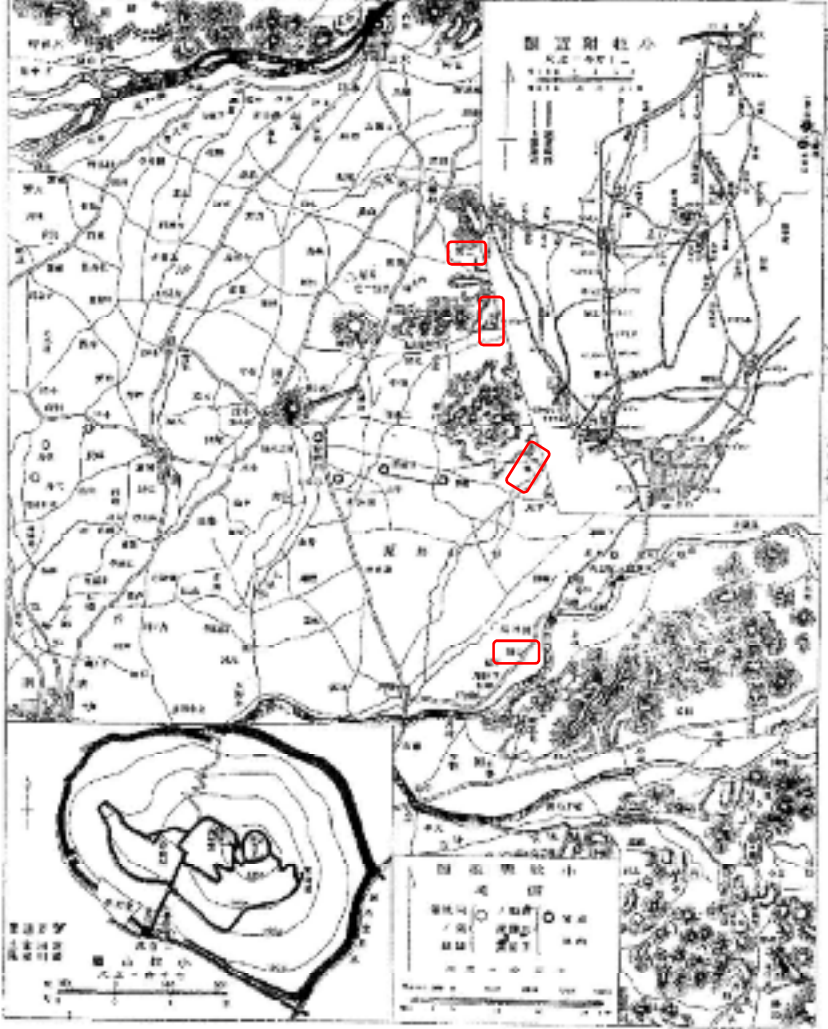
※上記資料は、「小牧市教育委員会発行 小牧叢書 16 【小牧山城】」・「史跡 小牧山整備事業報告書（旧小牧中学校用地） 2005」、「瀬戸市 HP 歴史文化基本構想 まちめぐり資料 長久手の戦い（天正 12（1584）年 4 月 6～9 日）隊制図」を参考とし、「国土地理院地理空間情報ライブラリー航空写真」に進軍ルートを記載したもの

参考資料

●「史跡 小牧山整備事業報告書（旧小牧中学校用地） 2005」 P16 より

●小牧叢書 16 より（P78）
四月七日には二宮から池の内村、大草村、関田村、篠木村、柏井を通過して上条村に入りここに砦を築いて宿営した。その広さは二里にも及んだという。

●歴史文化基本構想
まちめぐり資料
長久手の戦い（天正 12（1584）年 4 月 6～9 日）隊制図より



図表10 徳川家康所刊「小牧山」付属地図（天正15年）



「長久手の戦い」天正12（1584）年4月6～9日 隊制図

■ 合戦の様子

「小牧・長久手の戦い」、特に「長久手合戦」の様子を描いた合戦図屏風が複数存在する。その中でも最も早い時期に成立したといわれ、他の写本の基となったといわれるものに財団法人犬山城白帝文庫所蔵の「小牧長久手合戦図屏風」がある。

この屏風は、合戦に参加した成瀬家初代正成の活躍を描いたもので、成立は17世紀半ば、二代目政虎の頃に制作されたものである。

屏風の構成は、一扇から四扇までは徳川家康の本陣や井伊隊など徳川軍の進撃を描き、五扇、六扇に羽柴軍の不利な戦いと敗走を描いている。

四扇に秀吉方武将池田恒興（信輝）が家康方武将長田伝八郎に討ち取られた場面、五扇に秀吉方武将森長可が眉間を撃ち抜かれ落馬する場面、六扇には秀吉方武将池田庄九郎（元助）が家康方武将安藤直次に今にも討ち取られそうな様子や、池田隊・森隊の敗走場面などが描かれている。



■ 時系列で見る小牧長久手合戦図屏風（犬山城白帝文庫所蔵）

四月九日午前 8 時頃

色金山から富士ヶ根に着陣



四月九日午前 8 時頃
前山と仏ヶ根に布陣

左翼
井伊直政、内藤正成、高木
清秀その北方を織田信雄



四月九日午前 10 時頃

森長可軍は壊滅
(長可、眉間から血を
流し討死)



先鋒井伊直政が家康から預け
られた 20 人組鉄砲頭と鉄砲
隊の鉄砲 300 挺で応戦

四月九日午前 10 時から 11 時頃

敗走する池田・森軍



池田恒興（勝入）斬首



池田庄九郎（元助）討たれる



合戦の早い時間 堀秀政陣敗れる



堀秀政を打ち破った家康軍

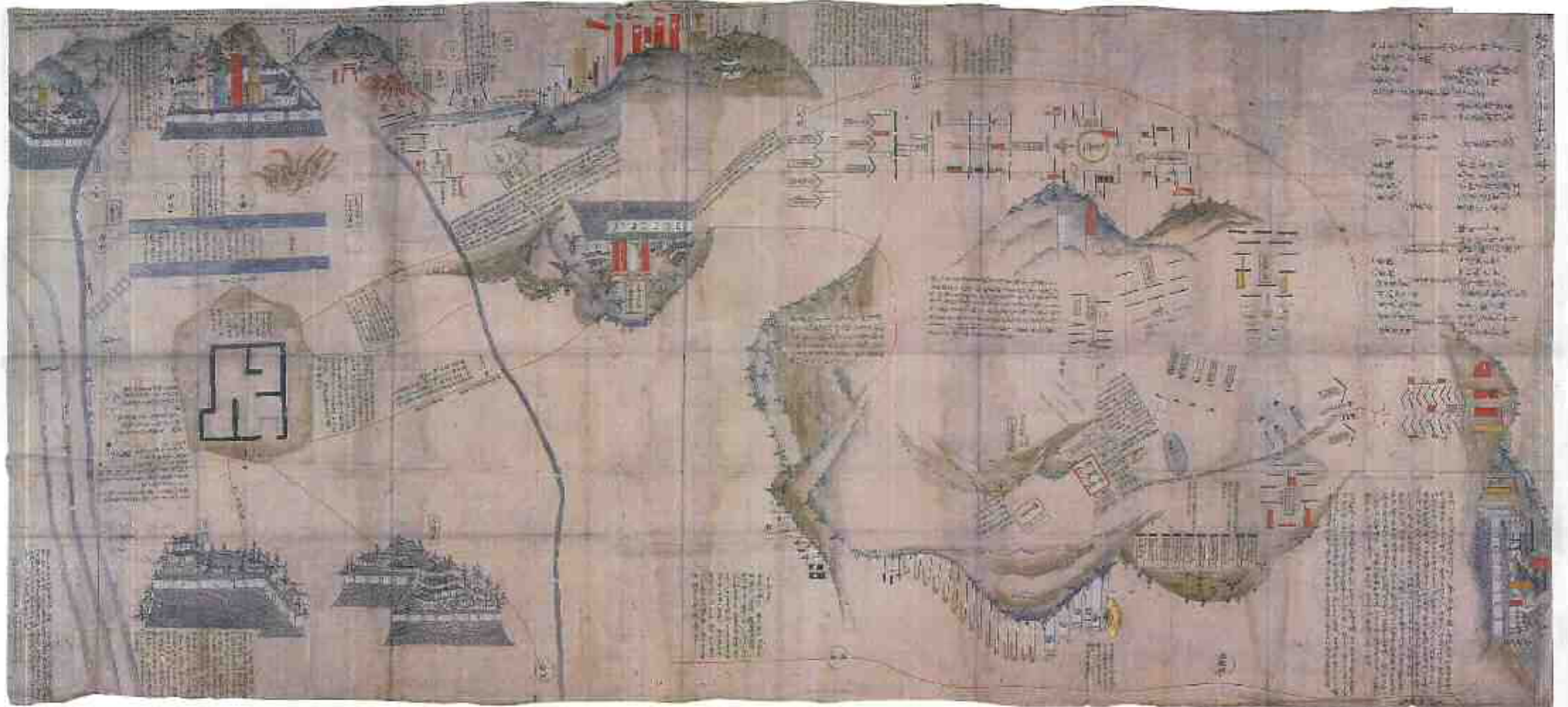


■ 小牧・長久手合戦陣立図（和歌山城管理事務所蔵）

「小牧御陣御進発之図」 江戸時代中期

この戦いの経過を示す地図の中でも特に大きく、絵や文字の情報が豊富な地図。

「愛知県史 資料編 12 織豊 2」より



小牧・長久手合戦陣立図（小牧御陣御進発之図、和歌山城管理事務所蔵） 図表提供：和歌山県史資料館

■ 小牧・長久手合戦陣立図（和歌山城管理事務所所蔵）
と小牧・長久手合戦図屏風（犬山城白帝文庫所蔵）

斬首された池田恒興(勝入)



池田恒興軍の黒母衣



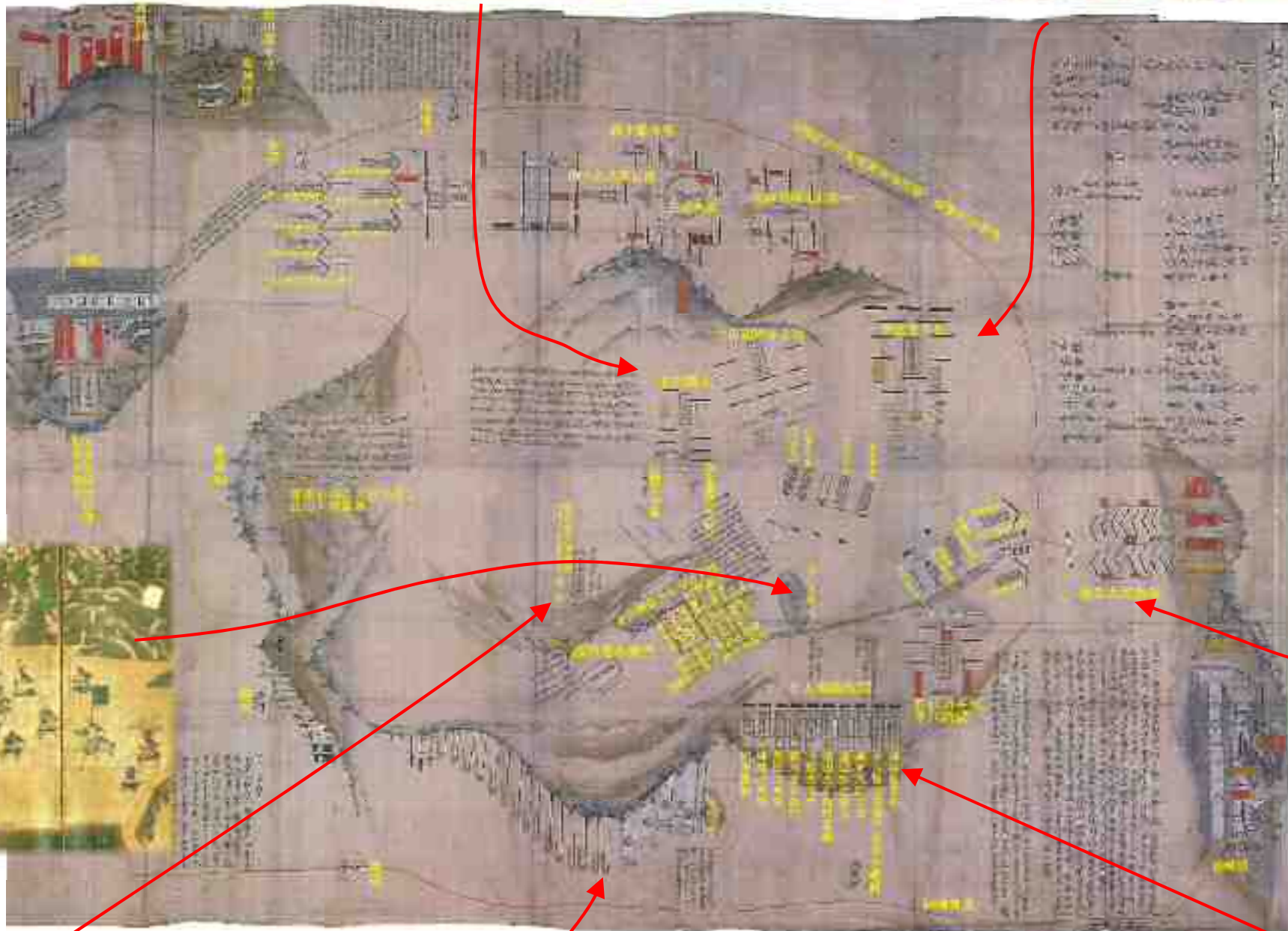
銃撃された森長可



森隊武将と戦う徳川軍兵士



家康軍は、前山と仏ヶ根の高地を占拠。左翼を井伊直政(万千代)、北方を織田信雄の兵で固めた。
秀吉軍は、池田隊と森隊が左翼、右翼には池田恒興の長男元助(紀伊之守)が陣を構えた。
両軍は、雨池（仏ヶ根池・アマホリ）と烏ヶ狭間を挟んで対峙する。



井伊直政(万千代)らの攻撃にあい、敗れた堀隊



徳川鉄砲頭



池田庄九郎（元助）を討つ安藤直次



徳川家康本陣御旗山



井伊直政、高木清秀隊

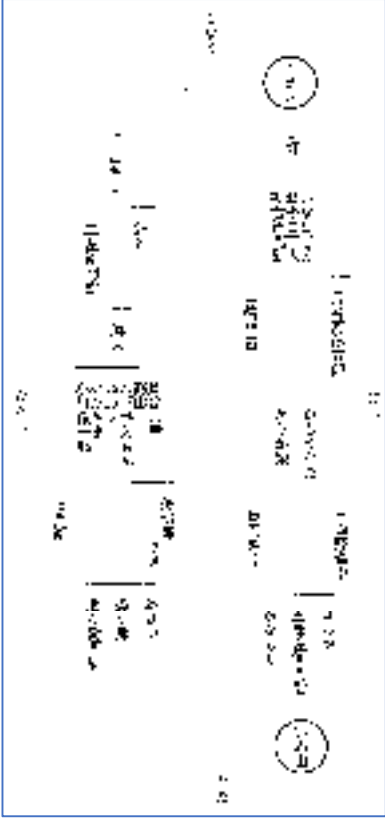
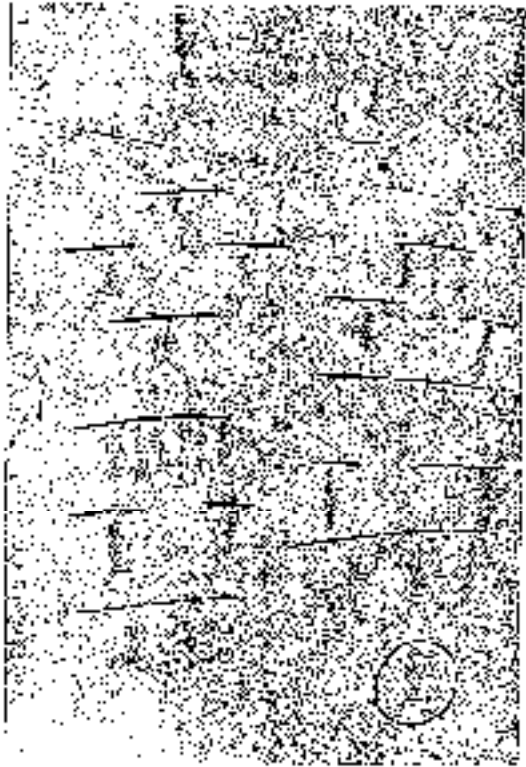


参考資料　－陣立書について－

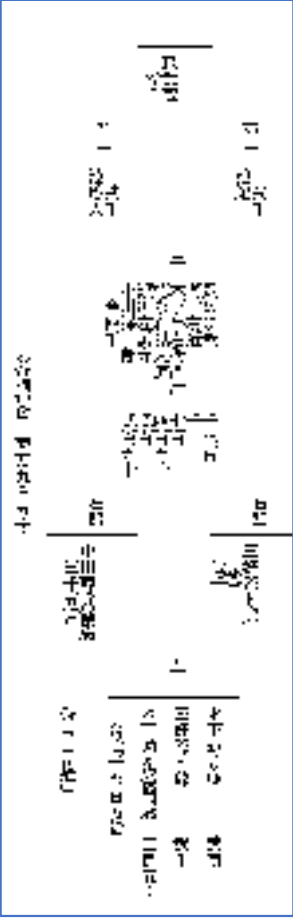
陣立書とは、特定の合戦を想定して、自己の軍勢を最も効果的に配置した作戦指令書というべきもので、これを制定した者の花押または印章が据えられているのが通例で、様式としては「文章」の一種である。中世の合戦では陣立書は作成されておらず、天正十二年の「長久手合戦」の際に、羽柴秀吉側が作成したのが始めと考えられる。（三鬼清一郎）　織田信長が發布した文書の中にも陣立書はない。また、徳川家康・織田信雄連合軍側が作成した陣立書は知られていない。

小牧・長久手の戦い陣立書

前田家所蔵文書



慶応義塾大学所蔵文書



※合戦の当初における秀吉側の陣容と考えられ、これを一部入れ替えた形で、「三河中入」の攻撃の軍勢が編成された。

現在の地形図と明治 44 年地形から見る長久手合戦の位置

